

【タイトル】 亀戸梅屋敷見学研修会
青年部会

【日 時】 平成 25 年 4 月 4 日（木）

【場 所】 亀戸梅屋敷

【概 要】

青年部会は平成 25 年 4 月 4 日（木）に、3 月 17 日にオープンした「亀戸梅屋敷」を 33 名の参加者を得て見学研修会を行った。

研修会冒頭に佐野青年部会長が、大勢の参加に謝意を表すとともに、自ら亀戸梅屋敷建設に携わったことから、建設までの経緯と苦労話などを話された。

また、亀戸梅屋敷の諸橋館長が同席され、亀戸梅屋敷の説明の後「オープンして間もないため、地域の皆さんのお知恵を拝借してよりよいものにしていきたい。」と挨拶された。



亀戸梅屋敷の外観

研修会は当初、スカイダック水陸両用バス体験乗車と亀戸梅屋敷における亀戸の歴史探訪研修会の予定であったが、諸事情により水陸両用バスが思わぬ運休となってしまったため、亀戸梅屋敷での見学研修を行い交流をはかった。



この水陸両用バスは定期運行としては都内で初めてのもので亀戸梅屋敷発着のコースと、東京スカイツリー前発着のコースの 2 つがあり、いずれも江東区大島の旧中川沿いに完成した「川の駅」から水上に出て遊覧し下町の風景などを楽しむことができる。



挨拶する佐野部会長

一方、亀戸梅屋敷は、亀戸駅から徒歩 5 分の明治通りと蔵前通りの交差点角地、旧三和銀行の跡地に建てられた。亀戸梅屋敷は、もともとは、商人、伊勢屋彦右衛門所有の別荘「

せいきょうあん
清香庵」のことで、亀戸三丁目近辺にあった。

庭内に梅が多く植えられていたことから「梅屋敷」と呼ばれ、かつて存在した「臥龍梅」と名付けられた一株は有名であった。



亀戸梅屋敷 諸橋館長

八代将軍徳川吉宗も鷹狩の帰りにこの地を訪れたといわれている。花の季節にはたくさんの人々でにぎわった。

浮世絵師・歌川広重の傑作「名所江戸百景」にも描かれている。

新しく建てられた亀戸梅屋敷の敷地には、交流館の梅結館ばいゆうかんと本館の福亀館ふくかめかんの二つの建物があり、どちらともに木材調の部材を使って、気品あふれる純和風の建物となっている。



亀戸梅屋敷 福亀館



亀戸梅屋敷 梅結館に展示されている江戸切子
訪れた人々に「福」をふるまう観光もてなし拠点として建てられた。

また、福亀館は亀戸を中心に、江東区内の観光スポットを情報発信するための観光情報ゾーンと亀戸を中心に、江東区内の名物、名品を販売する機能をもちあわせており、亀戸梅屋敷を通じて今後の江東区のさらなる活性化に期待したい。

梅結館は、その昔、亀戸梅屋敷には景観を求めて多くの人々が集まり、華やかな交流を繰り広げたことから、人と人、人と街を結ぶ市民ふれあい拠点とすることをテーマに建てられた。

福亀館は、亀戸の地に根付く長寿の縁起物「亀」にあやかり、地域の商店街の店主たちが選りすぐった「うまいもの」「いいもの」を通じて、亀戸を



亀戸梅屋敷 看板とやぐら



歌川広重の傑作 『名所江戸百景 亀戸梅屋敷』